

石仏散歩

No.88

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2014年6月15日 発行

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.vox.jp>

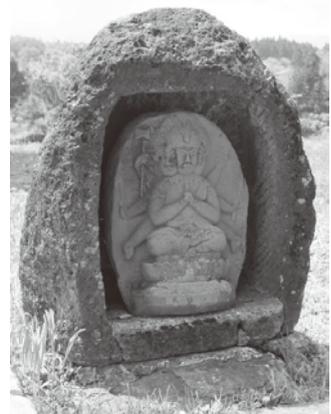
石 仏 散 歩

北国街道の 馬頭観音に思う

上越市 水島 健吾

北国街道の新井宿から関山宿までは約十一キロあるが、途中の二本木宿と松崎宿は月の前後半で宿駅業務を交代する合宿であった。この街道筋には十か所程に馬頭観音が祀られ、他所にはない多さとなっている。新井宿を出て最初の急登が、かつて「越後見納め小出雲坂よ、ほろと泣いたなんじを忘れよ」と里歌に歌われた「小出雲坂」であり、登りきった所から高田平野が一望できたという。近くの加賀藩の立場(小休所)があった辺りから板橋までの僅かの間に、四ヶ所も馬頭観音が祀られている。急坂に喘いだ馬達への哀惜の思いか、まだまだ続く国境までの長い登りの無事を願ったのか、どの石像もしっかりと小屋掛けされ、または石を穿って中に納められ、風雨、雪害から守られていて、往時の思いを伝えている。

その先の藤沢には彩色された像や、不動明王と対になっている物もあり、面白い。二本木宿の安楽寺近くには、博労(馬喰)だったという宮尾家空き地に明治期と思われる、立派な三面



八臂の馬頭観音像(写真上)がある。二本木宿は町続きの松崎宿同様、馬宿や人足宿、博

労が多く、他宿場と異なっていたという。松崎宿の上、市屋の街道脇に「馬洗場」があり、この大石に三体(写真左下)祀られているが覆いが無い為か、風化してきている。隣家の方に確認するも所有者、造立は不明だが、馬洗場の霧囲気に馴染んでいる。又、福崎の漆間家の石像は石覆で守られているが、念の為に雪害に遭わないようにと、冬期間は家に保管するとの事であった。

農耕、運搬の担い手だった馬達への感謝と生活の安寧を祈る心が、今もこの旧街道に生きている。



上越地区見学会参加記

新潟市 澁谷 龍生

今年の上越地区見学会は風薫る五月五日、秘仏金谷薬師（国指定文化財）のご開帳に合わせて行われました。参加者は四十五名と定員を大幅に上回りましたが、マイクロバスなど四台に分乗し、上越市金谷山周辺の石仏、文化財、戊辰戦争関連史跡などを回りました。紙面の関係でその中で強く印象に残った三箇所の様子を記し、報告とさせていただきます。

◆宝陀羅神社（上越市飯）

神社所蔵の元禄十四年文書に、補陀洛社として建てられ、天和検地の際発音にしたがって宝陀羅社（ほうだらしゃ）と表記が変わったとの記述があり、境内の観音堂の十二面千手観音坐像（市文化財）を拝観しました。南方に観音菩薩が住む浄土、補陀落山があるとする仏教の信仰が、日本固有の神社にも取り入れられていることに興味をひかれました。同様に民間信仰と想っていた道祖神も、新潟県神社庁の資料では県内に四社の道祖神社があるとされており、長い時の流れの中の宗教の習合・変遷を実感しています。

また、境内には相撲塔が二基（玉風・飯の森）あるのも珍しく感じました。

◆滝寺不動（上越市滝寺）

この地にかつて真言宗滝寺山吉祥寺があり、不動明王像は泰澄が開山した際、毘沙門天像とともに伝えられたといえます。伝説の不動明王像は滝壺の地下に埋



もれているといわれ、現在岩盤に安置されている不動明王像と脇侍の二童子像は江戸時代に造られたと推定されています。不動明王は岩肌を伝い落ちる水の背後から、厳しくおごそかな表情でお参りする人々を見つめており、願いを託す人々に、必ず救ってくださるといふ安堵感を与え

続けているように感じられました。この日も朝から信者さんが訪れており、赤い蠟燭が灯されていました。

◆会津墓地（上越市大貫）

戊辰戦争（一八六八）で敗れ高田藩にお預けの身となった会津藩士とその家族千七百余名は、城下寺町の寺院に収容されました。金谷山麓の墓地には謹慎が解かれる一年半後までに命を落とした白虎隊員を含む六十八名が埋葬されています。墓地は謹慎解除後も高田に残った方や当地のボランティアによって現在まで保全維持されてきていることでした。金谷山麓にはこの他にも戊辰薩藩戦死者墓、長州・豊浦藩士墓碑、高田藩士慶應丙寅戦死之碑など、明治維新に関わる多くの先人達の活動の証しが大切に保存されていて、この地域の気風を感じました。

最後に、今回の見学会を綿密に企画し実施していただいた上越地区の皆さん、各見学地や移動の車中でユーモアを交えて分かり易く説明をしていただいた青山、水島両氏、限られた予算の中から豪華な昼食を用意してくださった実行委員のおもてなしに厚く御礼申し上げます。

新潟地区石仏探訪

「三国街道中道りを歩く」新津編

新潟市 渡辺 景子

五月二十二日、前日の風雨で心配したとおり当日も同じく悪天候。長靴・レインコートを用意。「中止」も頭をよぎる位の雨の中十二名が集まり三台の車に併乗して出発。



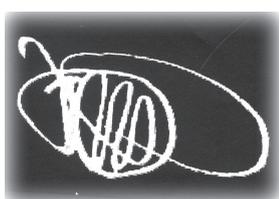
巨飯野神社（阿賀野市宮下）最初に訪ねたのは巨飯野神社。まず名前が読めない。どなたかが「あさいの神社」と教えて下さる。「旦」は元旦の「旦」あさひがであるので「あさ」と読む。他に「元日」と「元旦」の違いを知っていますか？と皆考えても見なかったことを聞かれて「知りませーん」。「元日」は一月一日24時間の事。「元旦」は「旦」は太陽「一」は水平線で一月一日の初日の事と知った次第。

妙蓮寺（新潟市秋葉区東島）鎌倉時代創建の日蓮宗妙蓮寺は明治三十年、境内を信越本線の線路に二分され「踏切注創意」の看板

がある。山門は文政九年（一八二六）に建造された荘厳な三間三戸二重門様式で新潟市指定文化財になっている。
題目塔と花押 妙蓮寺を含め近隣の寺は日蓮宗が多く、独特の髭文字のお題目を彫った題目法恩塔が沢山ある。

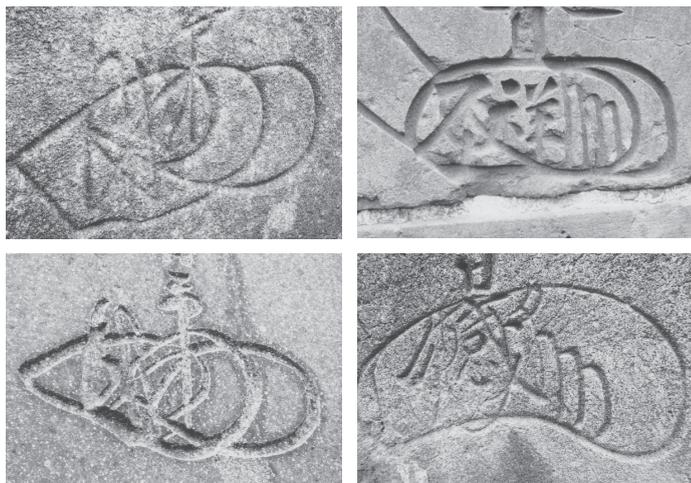


その題目「南無妙法蓮華經」の下になにやら印のようなものが彫ってある。それが「花押」という事を知り興味を持った。「花押」といえば秀吉、信長の戦国武将の署名のようなものと知っていたが、何故題目塔に彫られているのか調べてみたところ、日蓮上人の墓に日蓮の花押(図)



が彫ってありそれを弟子や信者が真似て自分の花押を書いたということらしい。
今回は題目法恩塔一基、題目塔三基、供養塔一基に、合わせ

て五個の花押を見つけた。各々日蓮の花押に類似している。勉強不足でわからない事ばかりだが、新しい発見に出会えた探訪だった。



下見に行った四月二十四日は桜、椿、雪柳と、どこのお寺も春を謳歌しているようだった。昨年四月のちょうどその頃、会員の野尻和子さんが急逝された。新潟支部を先頭に立って引っぱって下さった野尻さん 改めてご冥福をお祈りします。

事務局だより

◆26年度総会を開催しました

5月11日(日)、今年度総会と公開公演が長岡市中央図書館で開催されました。

第一部(午前10時)では、葛の葉会の横川恵子さんと金川真美子さんを迎え「瞽女唄にみる庶民信仰」と題する公開公演で、参加は32名(一般5名含む)でした。「巡礼おつる―旅立ちの段」「地藏和讃」「瞽女万歳(柱建て)」「など全六曲にじっくり聴き入り、日本の語り物と神仏信仰との密接な関係を改めて知ることができました。



第二部の総会では会員24名の参加を得、昨年度事業報告・決算報告の後、創立20周年記念事業報告・決算報告と審議が行われ、監査報告を経て全会一致で承認。引き続き今年度事業計画(案)・同予算(案)についても全会一致で承認されました。詳細

は別紙参照願います。

最後に、昨年の秋の記念事業の目玉であった県博企画展「石仏の力」のチカラで、新たに30名もの仲間が一気に増えたという事務局からの朗報を付記しておきます。

◆中越地区見学会のご案内

日時 8月23日(土) 10時〜16時
集合 ①十日町駅前 9時45分
(飯山線・ほくほく線利用者)

②十日町市博物館 10時

見学地

十日町市博物館企画展「松代の石仏」(同館学芸員の解説)、松茸神社宝物見学(犬伏)、松代

地区の石仏めぐり

定員 25名(マイクロバスで移動)

参加費 3,500円(昼食代込)

申込み 8月10日までに桑原和位さんへ

☎・Fax 0257(65)3340

〒949・8201 津南町大字下船

渡戊411

※留守電の際は住所・氏名を伝言願います。一日保険に加入する予定です。

◆一泊有志見学会のお誘い

今年も恒例の一泊見学会を別紙のとおり計画しました。ぜひご参加ください。

◆新入会員(順不同)

安達政光(小千谷市)、近藤正子(柏崎市)
長井 真(新潟市)、富沢和美(南魚沼市)
丸山花子胡(見附市)、三浦雄児(燕市)
和田幸蔵(長岡市)、奥村秀一(新潟市)
池田良作(上越市)、服部優美(長岡市)
阪井明子(五泉市)、小林豊喜(出雲崎町)
佐藤勝次(出雲崎町)、鷲山 厚(長岡市)
伊比卓郎(柏崎市)、青木雄也(南魚沼市)
青柳義春(新潟市)、滋賀郷太郎(新潟市)
荒木慶高(新潟市)、滝沢昇一(新潟市)
渡辺真一(新潟市)、伊藤静雄(新発田市)
斎藤昌文(新潟市)

◆新年度会費納入のお願い

今年度会費納入用の振替用紙を同封しました。早目にお振込いただくようお願いいたします。

編集後記



二十周年の記念すべき年が終わり、新たなスタートに立ちました。今年はどうな石仏に会えるでしょうか。じっくりと腰を据えて向かい合いたいですね。あなたにとって「石仏」とは一体何?
(やまだ漫歩)